

## 年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、2020年のオリンピック・パラリンピックの東京開催や富士山の世界文化遺産登録など、日本中が歓喜にわいた年でした。

また、一昨年に続き台風や竜巻、集中豪雨などの自然災害に対する支援や東日本大震災からの復興支援に向けた継続的な取り組みなど、人と人とのつながりの大切さをあらためて実感する年でもあったように思います。

一方、少子高齢化の進展に伴う人口構造の急激な変化により、年金・医療・介護などの社会保障給付は年間100兆円を超える水準に達しており、国では、全ての国民世代の暮らしを支える、持続可能な社会保障制度の再構築に向けた見直しを進めています。

また、家庭や地域の環境、経済構造等の変容により、生活困窮、社会的孤立等、既存の制度の枠組みだけでは十分に対応できない新たな福祉・生活課題が顕著となっており、「生活困窮者自立支援法」の成立など、支援に向けた準備が進められているところです。

本会としても、新たな制度の確立を視野に、社会福祉関係者の使命や役割等の再確認と、その力を最大限に発揮していくために必要な取り組みを進めるとともに、社会福祉法人による、要支援者に対する総合的な生活相談支援「かながわライフサポート事業」を着実に推進し、複雑多様化する課題に对应してまいりたいと考えております。

これらのニーズを的確に捉え対応していくためには、地域の第一線で活動を実践される法人や福祉施設、民生委員児童委員、保護司、市町村社協、関連諸団体等との連携・協働を、これまで以上に積極的に進めていくことが求められています。

本年も、皆さまのお力添えを賜りながら地域福祉の推進に努めてまいりますので、引き続き一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

会長 篠原 正治

## 支え合って生きることの大切さを伝えたい ―ともしび基金を活用した取り組みから―

当事者とのさりげない出合い

―海老名市社協

本会では「ともしび基金」をはじめ、「かながわ交通遺児援護基金」「かながわ子ども福祉基金」「萬谷児童福祉基金」を設置し、多くの皆さまにご支援・ご協力をいただいています。

特に12月は、「ともしび基金」に寄せられた寄附金の集結を実施し、ともしび基金募金箱の設置にご協力をいただいている公衆浴場・スパ・病院・ボウリング場・J・A・行政機関等から寄附金が集まります。

この「ともしび基金」は、昭和52年の創設以来、県民の皆さまに育てられ、平成25年11月末現在、約23億400万円までになりました。

お寄せいただいた寄附金は、基金原資として積み立て、その果実（利子）をさまざまな事業に活用しています。

その一つには、ボランティアや当事者グループ、市町村ともしび運動推進組織等が行う支え合いや地域でのつながりづくり等を目的とした活動への助成があり、本年度は12月までに、76団体・計2106万円を助成しています。

ここでは、助成した三つの組織・グループの実践を紹介します。

海老名市役所一階にある喫茶室『ともしびショップばれっと』（以下、「ばれっと」）では、市内のアクセサリー会社との協働による、バラのモチーフづくりや秋のメイクレッスン等の教室が開催され、女性を中心とした参加者がお茶を飲みながら楽しい時間を過ごしています。これは、より多くの人が、ばれっとで働く障害のあるスタッフと出合い、関心を持ち、困り事や悩みを知るきっかけにしてほしいと、海老名市社協とばれっとが協働して取り組み、さまざまな立場の人をつないでいます。本年度は、定員を超える多くの方が参加され、その数は延べ60人。「誰でも気兼ねなく、声掛けができるようになった」との声も聞かれています。

また、このほかに、本会で開催しているポスター・絵本コンテスト【関連記事1・12面】に応募した子どもには飲み物券を配布する等、家族で来店してもらえよう工夫もしており、海老名市社協の岩澤剛さんは「社協とばれっと、アクセサリー会社やボランティアがつながり、活動

